

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)**

事業所番号	2790800128		
法人名	株式会社のどか		
事業所名	グループホームのどか長居		
所在地	大阪市東住吉区公園南矢田1-15-22		
自己評価作成日	平成28年9月2日	評価結果市町村受理日	平成28年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年9月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム内でのレクリエーションとして工作活動に力を入れております。その時の季節に合わせたものを作り、展示することにより主にグループホーム内で生活されるご利用者様が季節感を少しでも感じていただければと考えております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は長居公園周辺の比較的閑静な住宅地で、前面道路も車の交通量が少なく利用者が散歩や買い物などで戸外に行きやすい立地に、3階建て3ユニットで開設されている。ホームは利用料金を低額に設定し、現在、半数を超える公的扶助受給者を受け入れて、低所得の認知症の方も生活面で安心して過ごせる場を提供している。職員は、利用者とのコミュニケーションを大切に支援に取組んでおり、夫々の利用者の思いに沿ったサービスの提供を管理者、計画作成担当者、看護師、職員が話し合い、介護計画に活かしていくことを進めている。そして、暮らしの張り合いや役割を生活リハビリとして利用者自身も担っていけるよう、部屋の掃除や、お米をといたり食器洗いなど、今できることを職員と共に行う様々な工夫も取り入れている。法人母体の医師の往診以外に、利用者の意向に沿って複数の医療機関の往診もあり、看護師も勤務して医療健康・管理が行われており重度化、終末期対応によるホームで看取りにも取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をスタッフルームに掲示している。事業所としての理念を職員と共に作り、玄関やスタッフルームに掲示し、毎日のケアに繋げている。	「・・・のんびりと落ち着いて静かな生活がおくれるよう・・・笑顔で質の高いサービスを提供・・・利用者の心の声に耳を傾け・・・尊厳を尊重・・・アットホームな空間でその方に合った生活を大切に・・・」との趣旨の理念を職員の総意で作成し、理念の実践をチェックリストで評価し質的向上を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会長より地域の行事の案内をもらい、敬老大会や防災訓練に参加している。利用者と共に近辺の商店へ出かけ、買い物をしている。	事業所の近隣居住の町会長の協力を得て、敬老大会参加や地域行事に参加したり、フラダンスのボランティアなど楽しみ事の訪問もある。地域のスーパー等への買い物や、神社、公園など近所への散歩は頻回におこない、地域の防災訓練にも参加し地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて少しずつ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、入居状況、行事計画などを報告し、運営に活かしている。	町会長、地域包括支援センター職員、家族、職員等が参加して隔月に開催している。入居状況、行事、運営状況等の報告を行い、参加者からも情報提供や意見もでて、サービス向上に活かしている。管理者は参加者の枠を広げる方策も検討している。	基準省令に定める会議参加者の要件である、「公正中立な認知症介護に知見を有する者」として、例えば同業者等の参加が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	東住吉区の生活支援課と連絡を取っている。東住吉グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っている。	生活保護担当窓口の生活支援課とは頻回に介護・医療扶助の給付申請代行等で連携を行い、担当職員の定期訪問もある。地域包括支援センターとは運営推進会議の他、入居の照会等での交流もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、身体拘束しないケアに努めている。また、身体拘束排除宣言を掲示している。玄関は防犯上、施錠しているが希望があれば開錠するようにしている。	職員は職場の研修で身体拘束による弊害を理解している。現在、拘束該当の利用者はいない。建物構造と安全上の理由で各ユニット間及び、1階玄関を施錠している。閉塞感を考慮して外出の希望にはできる限り、近隣散歩等で気分転換に努めている。	施錠による閉塞感が認知症のBPSD(周辺症状)に悪影響を及ぼすことから、グループホームの場合、ユニットや玄関の施錠も身体拘束該当行為とされている。職員間での認識の共有をし、まずは見守り可能な時間帯での開錠の試行検討を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待になっていないか常に意識し、伝達ノート等で注意喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料をファイリングし、スタッフルームにて職員が閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも、疑問や質問には随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や要望を聞くようにしている。また、意見箱を設けている。月に一度、家族に「のどか便り」と「生活の様子」で伝えている。	家族の来訪時や電話で、要望や意見を聞いている。毎月、請求書発送時に、利用者個別の心身の状況と生活状況を職員がコメントを添えて記入するとともに、行事や利用者の写真も入れた「のどか長居」便りを送付し、家族からホームでの暮らしぶりがよくわかるとの好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、スタッフ会議を行い、意見を集め、実行に移すようにしている。また、日頃からスタッフの意見を聞くようにしている。	毎月開催のスタッフ会議で、職員の意見や提案等を聞く機会を設けている。管理者と職員のコミュニケーションは良く取れている。行事、研修、食事等の担当職員を決めて、職員自ら業務推進に取り組んでいる。法人全体で、チェックシートによる職員のランクアップ制度を設け、スキルや意識向上も図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所を意識し、各職員が長所を活かせるように業務分担をしている。給与に関しては、会社独自でランクアップ制度を設けたり、処遇改善等を利用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回勉強会を行い、知識の向上に努めている。会社独自のランクアップ制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉区内のグループホームとの交流を積極的に行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、特に不安の軽減に対し、ご家族に頻回に訪問していただくよう依頼している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初などはご家族に連絡し、状況を伝え、不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特にかかりつけ医との関係については慎重に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が忙しくしているとキッチンの片付けやゴミ捨て等を積極的にしてくれており、共に過ごし支えあう関係はできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会があれば、お茶を出し、近況を報告しながらコミュニケーションをとるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限をせずに、自由に会ってもらっている。 墓参りや温泉旅行にはご家族に同行してもらっている。	家族、親戚や、その友人たちも含めて面会に訪れる利用者や、栽培した野菜などをホームに差し入れるなどの馴染みの人もいる。正月や盆に自宅へ外出・外泊したり、家族と外食や旅行に出かける利用者もいる。アンケートにも訪ねやすいホームとの評価も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないような配慮として、個別に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であってもご家族が尋ねてきてくれる。その際に相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人の生活歴などを確認し、本人やご家族の意向を踏まえて支援に努めている。	職員は日々の暮らしの中で利用者とのコミュニケーションを大事にしており、会話の中で聞き取った夫々の希望・意向に添った生活が出来るよう取り組んでいる。意思の表出が困難な方には、表情や態度、家族への聞き取りなどで意向に沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションをとる中で把握していくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、日報、伝達ノート等で一人一人の情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活記録とモニタリングをもとにカンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。	個別のサービス計画に基づく利用者の状況を、職員・計画作成担当者・関係者によるカンファレンスに基づき、モニタリング・評価し、短期は3カ月、長期は半年毎を基本に、現状に即した介護計画を作成している。認定更新時および、状態の変化があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記入し、伝達ノートを併用しながら情報共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向を大切にしながら柔軟な考えで、サービスの向上に人員配置の許す限りで取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩等で近くの公園や神社を利用するようにしている。 近くの商店に買い物に出ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向を尊重している。協力医療機関以外を受診している利用者に対しても適切な医療が受けられるように努めている。	法人の医療機関を協力医として月2回の往診があるが、本人・家族の希望を尊重して、他にも複数の医療機関の往診や、外来でのかかりつけ医を受診する利用者も相当数いる。外来受診は家族の同行を依頼しているが、困難な場合は一定額の支援費を徴収して職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護職員を配置しているので、随時報告し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、病院職員との連携を密にとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人やご家族に意向を聞いており、事業所でできることは伝えている。 重度化、終末期について本人、ご家族と話し合う場を設けている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」と「急変時の対応について事前意思確認書」の文書を提示し、ホーム内での可能な対応につき説明して同意を得ている。事業所としても看護師の指導で終末期ケアの勉強会を行い、医師・看護師・職員・家族の連携で、開設以来ホームで3名の利用者を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている研修の中で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署を通じ、避難訓練を行っている。また、食料や飲料水などを備蓄している。 運営推進会議を通じ、地域との協力体制を築き、地域の防災訓練に利用者と共に参加している。	昨年は消防署の指導も得て、年2回避難・誘導・初期消火などの法定訓練を実施している。スプリンクラー、自動火災通報装置、消火器等を設置し、備蓄もしている。地域の防災訓練にも参加している。管理者は、最近の岩手県でのグループホームの水害の教訓などを、職員で共有することを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チェックシート①②を活用し、接遇マナーについて職員同士が声を掛けあっている。	法人として全職員に、社会人としての品格、及び介護業務に携わる者として身に付ける知識や倫理性などを網羅した内容のチェックシートを配布し、その中の尊厳や接遇に関する項目で、自己・相互評価・事業所評価等で日常的に皆が、レベル向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の意思や思いをくみ取り、ケアプランにあげることを意識している。また、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを意識し、サービスを提供することを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族に好みや今までの習慣などを聞きながら、少しでもその方らしい身だしなみやお洒落ができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ができる部分の手伝いをして頂きながら行っている。また、食事形態等も利用者に合わせてものを提供できるよう工夫している。	食材と献立は外部業者より調達し、各ユニットで職員が調理をして、利用者の状態に配慮した食事が提供されている。利用者はお米をといだり、洗い物も役割や張り合いとして、できる範囲で共に行っている。月1回程度、楽しみなメニューの行事食の提供もある。管理者は、検食を兼ねて職員が同じ食事を利用者と食べることを検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量のチェックを行い、バランスよく栄養を摂取できるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと利用者の希望により週1回の歯科往診による口腔ケアを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「生活記録」で排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけないよう、一人一人に合わせた声掛け、見守りを行いトイレで排泄できるように努めている。	現在27名中、布パンツで排泄自立の方が12名、常時おむつが3名、その他はリハビリパンツ・パッド併用である。職員は個々の生活記録に排泄の状況を記入し、排泄のリズムやパターンを把握共有して、声掛け、トイレ誘導を促して、トイレでの排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘にならないように提携医療機関等に相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴の時間帯を決めているが、利用者の体調や気分配慮している。	浴槽は2方向介助の出来る浴槽で、週2回の入浴確保を基本としている。拒否傾向の利用者には、職員は声掛けの工夫や、時間変更など利用者の体調や気分配慮し、個々に沿った支援をしている。シャワー浴、足浴、清拭などの対応もしている。希望の方には、同性介助も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせてながら、居室で休めるよう見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容等をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等の手伝いや散歩、ボランティアの受け入れ等できる限り利用者に楽しんでもらえる時間の提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望があれば、できる限り散歩に行くよう努めている。普段、行けないような場所へは、ご家族の協力を得るようにしている。	ホームの周辺は道路幅もあり、交通量も少なく、近くの神社や公園、周辺への買い物などの散歩がしやすい環境にある。利用者の体調を見ながら出来るだけ外気に触れるよう支援している。家族の協力で買い物や食事へ行く利用者もいる。花見は近隣の大阪市植物園へ出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の意向により、ご家族の同意を得た上で小遣い程度の金額を利用者が所持し、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、直接電話をしてもらえるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと玄関には、利用者と職員で作った季節に合わせた作品を掲示している。	南面のガラス張りのホールの内側に各階入口があり、共有空間は明るくゆったりして、清潔である。リビング兼食堂を中央に、周囲に台所、居室、浴室、トイレを機能的に配置し、突き当りに非常階段がある。壁には月毎に、利用者と職員で作った季節感も取り入れた貼り絵と書道の作品を掲示し、テレビ横には寛げるソファが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の場所を随時移動させる等の対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具やテレビ、家族の写真、仏壇などを持ち込んでもらうなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室にはベッド・エアコン・カーテン・ナースコールが設置されている。比較的簡潔な居室も多いが、利用者の馴染みの収納ボックスやテレビ、家族写真、仏壇などが持ち込まれて、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室がわかりやすいように標示をしている。		